

和を觀ずる

あなたは今、幸せを感じていますか？

おだやかなこと、なごやかなこと、のどかなことを和と言います。和には、団体スポーツにおける「チームの和」、人間同士における「争いのない平和」、そして人と人との関係以外でも、料理の「味付けの調和」などがあります。

聖徳太子の「十七条憲法」の第一条に、「和を以て貴しと為す」と示されています。また、この和には「大和国」の意もあり、日本人は昔から最も尊び大切に重んじてきました。

人や物には、必ず存在する意味があり、お互いの関係の中に持ちつ持たれつ助け合い、相交わりながら存在しているのです。しかし「人と人とが豊かに相交わる」ということは大変に難しいことです。

あやまった道

子孫を残したい・食べ物を食べたいという動物本来の本能以外に、人間には自己中心的な欲望が存在します。人間はこの欲望を追い求めてしまいがちであるといえます。一つには、美味しいものをお腹一杯食べたという欲望であります。次には、良い職に就き、他人よりも名誉や財産を得ようとす欲望が出ます。最後に、最良のパートナーと共に歩むばかりでなく、甘い誘惑に溺れ、人としての道にはずれた行為により、あやまった道へと進むことがあります。

どの欲望をとつても、表面的な満足感は得られても真の幸福感は得られず、欲望を満たせば満たすほど、後になって虚しさを感じるのではないのでしょうか。

幸福な暮らし

人は誰でも、愛し愛されることを好み、無償の愛を授かることに生きる喜びを感じるものです。人を愛し慈しむことは、お互いの人格を認め合うことにつながるのです。

しかし、ほんの僅かな浮いた気持ちから、パートナーと信頼し合っていた関係が、一瞬にして傷つき崩れてしまうことがあります。

仏教の「十善戒」には間違った性的関係を持たず、平和で幸せな関係を保つ「不邪淫」という教えがあります。この教えは、「常に相手の立場を敬い、夫婦の正しい道を守り、男女関係をみだしてはならぬ」という仏さまの教え、智慧が込められているのです。

この戒を抛りどころとして、自覚し、守る生活を送れば、心が洗われ幸福な道を歩むことができるのです。

真の幸福とは、お互いを尊敬しあう変わらぬ慈愛に基づくのです。

あなたの幸せは、すぐそこに在るはずですよ。